

広がる、つながる Tatsumi のネットワーク。

辰巳法律研究所

TATSUMI ネットワーク

<http://www.tatsumi.co.jp/>



高田馬場の東京本校を軸に全国に展開する辰巳ネットワーク

東京本校 & アネックス校舎

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜除く) 9:00 ~ 19:30
●日曜日 9:00 ~ 19:00
ビデオ予約番号 080-1368-6589 (10:00 ~ 18:00)

●〒 169-0075
東京都新宿区高田馬場 4-3-6
●TEL 03-3360-3371 (代表)

名古屋本校

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜含む) 9:00 ~ 19:30

●〒 450-0003
名古屋市中村区名駅南 1-23-3 第2アスタービル 4F
●TEL 052-588-3941 (代表)

京都本校

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜除く) 9:00 ~ 18:30
●日曜日 9:00 ~ 18:00

●〒 604-8152
京都市中京区烏丸通錦小路上手水洗町 670 京都フクトクビル 6F
●TEL 075-254-8066 (代表)

岡山校
(穴吹カレッジキャリアアップスクール内)

●〒 700-0901
岡山市北区本町 6-30
第一セントラルビル 2号館 8階
●TEL 086-236-0335
(穴吹カレッジキャリアアップスクール内)

横浜本校

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜除く) 9:00 ~ 18:30
●日曜日 9:00 ~ 18:00

●〒 221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル 4F
●TEL 045-410-0690 (代表)

大阪本校

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜除く) 9:00 ~ 18:30
●日曜日 9:00 ~ 18:00

●〒 530-0051
大阪市北区太融寺町 5-13 東梅田パークビル 3F
●TEL 06-6311-0400 (代表)

福岡本校

窓口営業時間 ●平日・土曜・祝日(日曜除く) 9:00 ~ 18:30
●日曜日 9:00 ~ 18:00

●〒 810-0001
福岡市中央区天神 1-10-17 西日本ビル 8F
●TEL 092-726-5040 (代表)

2015年度 司法書士試験 合格体験記

無料

合格の形

かたち

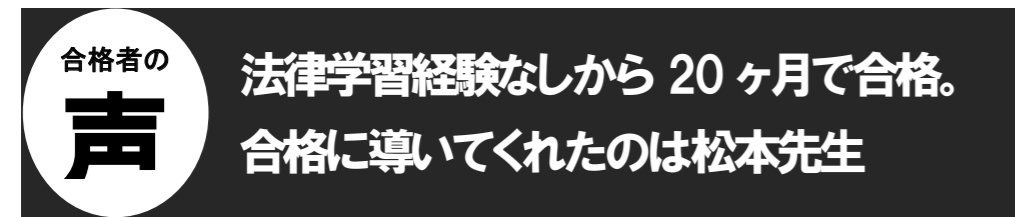
全国版



司法書士試験対策・シェア急上昇

辰巳法律研究所

Tokyo · Yokohama · Nagoya · Osaka · Kyoto · Fukuoka
提携校：Okayama



平成27年度合格者 **小浜 美智代**さん
受験回数 2回



本試験当日

「時間切れだけは許しませんよ！」
平成27年7月5日本試験当日、午後的一刻一秒を争う時間のなか、私の頭の中には何度も松本先生の声が鳴り響いていました。司法書士受験生のみなさん、あなたは本試験当日何を思い何を信じて戦いますか？

自己紹介

私はこれまで法律に全く縁が無く法律に関わる勉強を全くしたことが無い状態からリアリストック松本基礎講座を開始し、受験回数2回目・専業受験期間1年8ヶ月で平成27年度の司法書士試験に合格しました。おそらく短期合格の部類に入るとは思いますが、若くも無く、学歴も無く、まして優秀でも無く、司法書士を目指すきっかけも自発的ではありません。他の合格者の方々に比べて劣るところばかりで正直なところ恥ずかしいのですが「こんな合格者もいるんだなー」という軽い気持ちでお読み頂ければ幸いです。そして私と何らかの共通点がある方に私の失敗例・成功例が少しでもお役に立てればと願います。

はじめに

「司法書士を取って欲しい」私が司法書士を目指すきっかけとなったのは、家族から言われたこの一言です。それまで「司法書士」という職業をよく知りませんでした。法律の勉強にも全く縁がなかったため、最初(図書館の人のことかな?)と勘違いしてしまったくらいです。さらに「第二の人生を歩くために必要な自信を勝ち取って欲しい」とも言われてハッとしました。ちょうどその頃、約13年勤めた会社をやむなく辞めることになり何もすることが無くなった私はまさに空っぽの状態でした。在職中はキャリアが長いこと、役員に次ぐ地位まで昇進したこと、事務マネージャーの役付で十数人の直下の部下がいたことなどを誇りに思っていました。そもそも中小企業での多少のキャリアや地位などまさに吹けば飛ぶような脆いもので、ただの井の中の蛙に過ぎなかったことを思い知

りました。(どこでも通用するような確固たるモノが欲しい、誰かの評価で上下するようなモノはいらない。誰にも奪われないモノが欲しい。)そう切実に悩んでいた自分にとって、「司法書士」という国家資格はまさに求めていた理想だと直感しました。そして「君なら出来る」と言われその気になったのです。今思えば安易極まりないのですが、時には調子に乗ることで早く思い切った決断ができることもあるのだと解釈することにします。

リアリストック松本基礎講座を選ぶまで

司法書士になるには、とにかく司法書士試験に合格しなければなりません。会社の最終出勤日は平成25年10月21日でしたが、直近の司法書士試験は平成26年7月6日です。なんとあと8ヶ月しか無いのですが、試験は待ってくれません。なんせ法律に全く縁が無く法律の勉強を全くしたことがありませんでしたので、どんな試験なのか?どんな試験科目なのか?などは後回しにしてまずは慌てて予備校を探しました。ですが何も知らない状態で予備校を闇雲に探しても訳がわからず、説明されている内容もさっぱりわからず、さらに中上級講座ならともかく8ヶ月以内の基礎講座などどこにも見当たらずもうお手上げ状態でした。それでも一日一日と本試験の日は迫ってきます。家族からは「11月からは必ず勉強を開始するように。それでも遅いくらいだ。」と通告され焦っていたところ、ふと辰巳法律研究所の松本先生の講座が目にとまりました。(松本先生、5ヶ月で合格してる!しかも講座の勉強方法が法律の勉強に特化したマニアックなものじゃない!検索の一元化とか共通する視点とか法律を知らなくても何とかなるかも!!)今思えば安易な決め方かも知れませんが、法律を知らない初学者にとっては、法律用語は外国語のようにしか見えませんでしたので、唯一私の知っている日本語で理解できる学習方法だと思いました。そして(松本先生は5ヶ月で合格されているけど、私にはあと8ヶ月もある!大丈夫だ!)と思いました。(8ヶ月もある!)なんて今考えればぞっとする程無知なのですが、何も知らないということがとても強みになることもあるのです。まわりから見れば無謀とも言える決断だった

と思いますが、当の本人は(運命の先生を見つけた!)と有頂天でした。(松本先生の講座にしよう!)と決めたその足で辰巳法律研究所の大阪本校を訪れました。私は大阪在住のため残念ながら松本先生のライブ講座を東京で受講することは不可能でしたが、自宅で通信で勉強するより、予備校に通って他の受験生に並んで勉強する方が緊張感があって集中できるだろうと考え、実際の通学場所をあらかじめ見学させて頂こうと考えました。どういった環境で勉強ができるのかということも大事なことです。みなさんも講座を決める際には考慮された方がよいと思います。私の場合は実際に説明を担当して下さった大阪本校スタッフの山田さんの誠実なお人柄と大阪本校の雰囲気よさに安心できましたので、見学に付き添ってもらった家族と一緒に「ここなら通えそうだね」と納得したうえで、松本先生の無料ガイダンスを視聴してすぐに講座を申し込みました。受講を開始した日は忘れもしませんが、平成25年11月1日です。この日に自分の新たな人生の舵を切ったのです。

リアリストック松本基礎講座受講開始

「記憶に残ればいいんです！」
平成25年11月1日、意気揚々と勉強を開始しました。会社を辞めて何もすることの無い虚脱感から抜け出し、「司法書士試験8ヶ月合格」という無謀とも言える目標に向け、やる気満々です。そして松本先生の授業は法律初心者にとって堅苦しくなく新鮮でとても面白いものでした。難しい法律用語も日常のわかりやすい例えで説明して下さるので記憶に残りません。そのポイントを自分でテキストに書き込むのでさらに印象深くなります。例として間違いやすい民法の「使者と代理」の違いにおいては、私のテキストには犬が買い物のお使いをしている絵が描いてあり、一言「(使者は)犬でもOK」と書き込んであります。試験では、「意思能力は?行為能力は?」の論点を細かく聞かれたりしますが、(使者は『犬でもOK』だもんね)というワン(犬だけに)フレーズでだいたい判断できます。少し乱暴に聞こえるかもしれませんが、本試験に合格するためには、法律の正確な知識に多少欠けていても一瞬で問題の正否を判断できるような「共通する視点」や「記憶のフック」を多く持つことが大事だと思います。他にもユニークな覚え方、思い出しが多数ありますので、リアリストック松本基礎講座を受講される方は楽しみになさってください。松本先生はいつも仰います。「記憶に残ればいいんです！」私は初心者ゆえの法律に対するコンプレックスがありましたが、この言葉で聞き直して楽しく講座を続けることが出来ました。

勉強の環境

私は専業受験生でしたが、直前まで仕事の鬼のよう

に働いていましたので、その勢いで勉強=仕事と位置づけることにしました。私にとっては勉強=仕事ですので必ずやり遂げなければなりませんしノルマだと捉えられました。そしていくら時間が足りなくても期限(本試験の日)までに合格レベルに持っていく必要があるプロジェクトです。社会人の方はそうイメージされる方が計画しやすいかもしれません。

平成26年の本試験(午前足きり、午後26点)

不合格です。実力不足です。午前足きりでしたが午後は聞き直って基準点超えの26点を取ることが出来ました。

わたしのとった勉強方法(不合格の原因・反省点)

本試験直前:答練・模試の復習に時間をかけ過ぎた。講座を詰め込んで受けたため、講座終了と同時に答練が始まり、テキストの復習が十分に出来ませんでした。基礎力がグラグラの状態なのに答練・模試の復習に時間を割いてしまいました。もっとテキストを重点的に復習すべきでした。

本試験当日:自分を追い込み過ぎた。追い込まれて底力を出すタイプor追い込まれると萎縮して実力を出せないタイプ、人それぞれですが、私は萎縮するタイプということの本試験当日に知ることになりました。

あらかじめ模試や答練などでどちらの方が実力を出せるのかを何度か確認しておいた方がよいと思います。

本試験当日:解く科目の順番を当日いきなり変えてしまった。


これで調子を崩しいきなり知らない問題にぶつかりパニックになりました。問題は1問目から解く必要はありません。得意な科目から解く方が調子が上がりやすいと思います。これも模試や答練でいろんなパターンを試してみましょう。私は試した結果、午後は不動産登記から解く事が一番合っていました。記述から解くパターンでもよいと思います。

次年度の勉強方法

最初の本試験に撃沈したため、勉強方法を変えることも検討し他講座のテキストなどを調べてみましたがどれもピンと来ませんでした。松本先生にご相談したところ、会社法改正部分のみ対策が必要なものの基本はリアリストックテキストで独学が可能とのアドバイスを頂きました。慣れ親しんだテキストをあらためて読み進めると今まで読み飛ばしていた情報がたくさんあることに気づきました。何回読み直しても今でも新たな発見があることがわかったためもう1年リアリストックテキストだけで独学することに決めました。本試験までにテキストを何周もまわすことを最優先し、検索の一元化を徹底し、テキストのあ

**合格者の
声**

**辰巳を選んだ決め手は、海老澤先生のご評判、
司法試験の分野における実績、コストパフォーマンス**



平成 27 年度合格者 **菊谷 彩佳**さん

受検回数 3 回

はじめに

私が司法書士を目指すきっかけとなったのは、大学生のときに参加したホームレス支援のボランティア活動でした。生活保護申請への同行や、路上での無料法律相談など、生活困窮者の支援に弁護士や司法書士の存在が役立っているということを知ったのです。卒業後もずっと社会的弱者の支援に携わりたいと思っていたこともあり、専門的知識を活かしてそのような人の役に立てる司法書士という存在に憧れました。

とりあえず某大手予備校発行の民法択一過去問集を購入し、独学で勉強をしてみたものの、効果的な勉強方法が分からず、計画性もないのでなかなか学習が進まないのです。また、択一はまだしも、記述式は独学での対策は限界があると思ったので、思い切って予備校に通うことを決めました。辰巳を選んだ決め手は、海老澤先生のご評判、司法試験の分野における実績、コストパフォーマンスでした。

私はフルタイムで働きながら受験勉強を続けていました。理由は予備校費用を捻出したかったのと、時間に余裕があると怠けてしまうくせがあるので、働きながら空き時間で勉強する方が、限られた時間内で集中できるので、自分に向いていると思ったからです。

私のとった勉強方法

■インプット段階

「1年合格総合コース」の全科目インプット講座では、板書図をノート代わりにし、先生の話で気になる部分や知識の定着に役立ちそうなことをメモしました。講座で学んだ箇所は過去問の該当箇所を解くことで復習しました。予備校に向かう電車の中や空き時間で、録音した先生の講義を聞きながら、ノートを読み返すことを習慣化していました。

受験生活二年目の直前期は、小玉先生の択一講座を受講。条文に抵抗があり苦手としていた会社法や商業登記法を、条文の読み方や意味を中心に勉強することができたこと、午後マイナー科目についての対策をしっかりとできたこと、過去問を繰り返し解くことの重要性や、択一問題を解く際のテクニックや直前期の勉強方法の話は大変ためになりました。

受験生活三年目の直前期は、会社法改正対策として海老澤先生の講座を受講、午後マイナー対策として日吉先生の講座を受講しました。民事訴訟法や供託法が大の苦手だったので、日吉先生の午後マイナー講座は本当に助かりました。海老澤先生の会社法改正講座は、ただでさえややこしい会社法の改

正の背景や、主要な論点等を噛み砕いて解説してくださったので、今後のことも含めて大変ためになる講座だったと思います。

■アウトプット段階

択一对策は過去問中心に学習をし、過去問だけではカバーしきれない部分はテキストを読み込むことで対応しました。特に受験生活三年目は辰巳の最新版の過去問本を最低でも3周はすることを目標にし、間違えた肢は目立つようにマーカーで印をつけておくようにしました。ラスト一週間で過去問本の全肢を一気に復習するという、小玉先生から教えられた勉強方法は、試験本番で抜群の効果を発揮しました。

記述対策は、「1年合格総合コース」の全科目練習講座が本当に役に立ちました。本試験や答練の分量を半分にしたような練習用問題で、無理なく記述の基本論点を一通り押さえることができたからです。自習用の書式集もよく出来ていて、会社の休み時間を使って毎日少しずつ書く練習をしました。受験生活三年目は、不動産登記法に不安があったので、市販の過去問集を購入し、H10～H26年までの過去問を全て練習し、加えて司法書士オープンの記述式問題ももう一度自分で解いて復習していました。商業登記法は改正論点の習得をしたかったので、司法書士オープンの問題をメインに練習しました。

「司法書士オープン」は何ととっても、記述式問題の質の高さが魅力(量が若干多めなものもよい)で、択一の難易度も本試験とほぼ同等レベルなので、本試験の練習に最適だったと思います。8回分を通して記述の頻出論点をかなりの程度カバーすることができるので、復習用にも便利でした。記述式の解法については、商業登記法は横浜校のガイダンスで出会った小玉先生から教わった「超速解」をずっと使っていました。不動産登記法はなぜか自己流のまま、効率のよい解法を模索していったので、安定した解法を確立するのに時間がかかりました。模試や答練で出た記述式問題は、後でもう一度解きなおして復習するようにしていましたが、その際に解説書と照らし合わせて重要なポイントや、不正解だった箇所については間違えた原因や理解の不十分な論点をノートにまとめ、いつでも読み返せるようにしました。

合格に至るまでの出来事

■受験生活一年目

自宅近くの会社に勤務。非常に残業が多い会社で、平日は休み時間に択一過去問や記述の書式集など、短時間でも学習できることをしていたものの、一日にとれる勉強時間はよくて2時間。もちろん休日は予備校の講義の他、自習も含めて

10時間は勉強しました。本試験の結果は惨敗。敗因は圧倒的に勉強時間不足でした。

■受験生活二年目

一年目の反省から、フルタイムで働くという方針は変えず、最低限の勉強時間は確保できる仕事を選ぶことに。幸い横浜で条件のよい仕事を見つけ、再び受験生活をスタート。仕事がある日でも一日4～5時間は勉強時間を確保できました。1年合格総合コースで基本は一通り学んでいたの、直前期の対策講座だけを受講することになりました。しかし、2014年の本試験、力及ばず、午前午後ともに択一の基準点を超えることができず惨敗。

■受験生活三年目

二年目の受験失敗後、来年の試験を受けるかどうか迷っていて、とりあえず何か勉強したいと思い、筆記試験終了後の7月から10月まで、宅建の勉強をすることにしました。市販のテキストと過去問集を購入し、テキストを空き時間に毎日読み込み、テキストの内容を一通り理解したと思ったところで過去問にも挑戦し、弱点だと思った部分はテキストに戻って重点的に復習しました。宅建業法や建築基準法など、今まで勉強していたこととはまったく異なる分野の法律を基礎から勉強する作業は、とても楽しかったです。10月の宅建本試験には、無事合格することができました。

もう一度だけ、司法書士試験を受けようと心に決め、11月に受験した辰巳の真ん中模試は見事に惨敗で、正直心が折れました。もう半年しか時間が無いし、諦めようかとも考えたのですが、家族からハッパをかけられて、今度こそ落ちたらもう諦めるつもりで2015年の本試験を受けることに決めたのでした。

宅建の受験勉強を通して感じたのは、基本が大事という当たり前のこと。今までの司法書士の学習では、講義の内容はしっかり復習していたけれど、基本テキストを読み込んで土台の知識を固めるという作業をおろそかにしていたことに気づかされたのです。そこで、今更ながらテキストを最初から徹底的に読み込みました。

実は、5月までの時点で残りの勉強時間が足りず、このままでは間違いなく落ちると思っていたところで、当時勤めていた会社からいわゆる派遣切りに遭ってしまいました。いまままで頑張ってきた仕事を失うのは辛かったですが、受験生の視点で考えれば、本試験までのラスト1ヶ月を全て勉強に費やすことができるという、千載一遇のチャンスが無い込んできた訳ですから、仕事をクビになった悔しさを全てぶつけるつもりで取り組みました。それでも勉強する気になれない日や、やる気が出ない時期もありましたが、オープンや模試がモチベーション維持に役立ちました。

本試験当日

正直な実感として、これまでの対策は決して万全とはいえなかったです。特にマイナー科目は二週間前に択一の過去問を一周しただけ。テキストは一通り読んだものの、曖昧なまま放置されてしまっている部分も多く、多分マイナー科目が足を引っ張るだろうと予想していました。

しかし、蓋を開けてみると、心配だったマイナー科目は、これまでの辰巳の答練・模試の問題や日吉先生のレジュメで対応できる問題がほとんどで、ラッキーでした。むしろ、直前期に重点的に学習していたはずの会社法と商業登記法が足を引っ張る結果となりました。

記述は、不動産登記法は近年の超難問続きの傾向があっただけに、問題を見た瞬間、あれ、去年より簡単？と思い、少し拍子抜け。逆に商業登記法は難しかったです。株式交換はまったく予想していなくて、私が受けた辰巳の答練や模試にも出ていなかったの、一瞬頭が真っ白になりましたが、確実に解けるところから解いて、「守るべきところは守る」という気で臨みました。

ちなみに、一年目の受験のときから一貫して、午後の部を解く順番は、商業登記法(記述)⇒不動産登記法(記述)⇒択一の順。

今年ダメだったら、一旦司法書士受験からは足を洗って、真面目に就職活動をしようと考えていました。

後進へのアドバイス

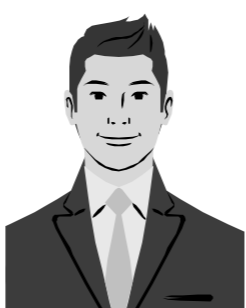
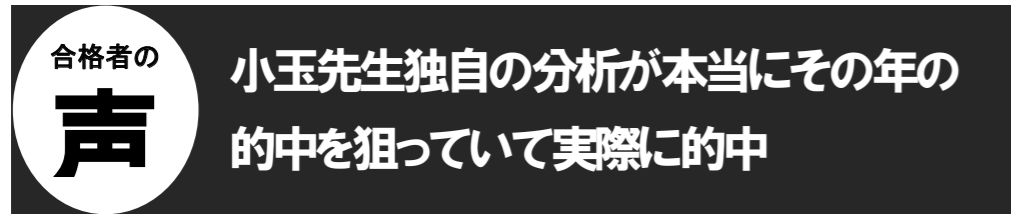
自分の反省を踏まえた上でアドバイスできることがあるとすれば、基本をおろそかにしてはいけない、当たり前のことなのですが、これが意外と難しいのです。初学者の段階では基本テキストも難解な内容が多く苦勞することもあるかと思います。私は海老澤先生の力を借りて何とか理解できるようになりました。

私は、ラスト1ヶ月間を除けば、ほぼフルタイムで就業しながら勉強をしていたこともあり、勉強時間不足の問題には最後まで悩まされたものです。特にマイナー科目は勉強する時間を十分にとることができず、対策が不十分なまま本番を迎えた為、結果的にマイナー科目をほとんど落とさなかったのは幸運としか言い様がありません。本番で足を引っ張った商業登記法はテキスト等の基本事項が曖昧なままだったのだと思います。逆によかった点としては、民法と不動産登記法を基礎から学び直したこと、不動産登記法の記述については過去問を徹底的に研究したことが大きかったと思います。

一日の内で、「最低限これだけはやる」というノルマを設定するのも大事だと思います。ノルマは少しきつめだと感じるぐらいがちょうどいいと思います。私はあまり要領が良くないので、なかなか自分で設定したノルマを達成できず溜め込んでしまうことが多かったのですが。

後進へのメッセージ

あまり偉そうな事は言えませんが、人生は一度きりです。どうか悔いのないように、ご自身の信念と目標をもって全力を尽くしてください。



平成 27 年度合格者

かなやま ゆうすけ

金山 友輔さん

受験回数 3 回

普段気を付けたこと

私が勉強する上で常に心掛けたことは「普段の勉強を本試験当日の解答の根拠とする」という当たり前だけど忘れがちなことです。

私は平成 27 年度本試験を受験するに当たり小玉塾を受講しました。

司法書士試験の範囲は非常に膨大で手を伸ばし続けるときりがありません。小玉塾を受講して小玉先生が「合格するためにやるべき範囲」を明確化してくれたのはとても助かりました。

私は本試験当日に使えない知識を知ることは勉強ではないという認識をしていました。

モチベーション維持のため勉強時間をストップウォッチで細かく計っていましたが、基本的に過去問、条文、小玉塾の教材以外の時間は勉強時間にカウントしませんでした。

いくら時間をかけても本試験当日の解答するのに使えない知識は頭にいれる意味がないしあったら邪魔になる可能性もあると考えていたからです。

そして問題を解くときは必ず自分の中で何らかの根拠があるもので正誤の判断していました。

勉強を始めてからの3年弱は1日も勉強しない日はありませんでした。毎日毎日本試験当日に解答するための知識を磨いていく作業のような日々を送りました。

小玉塾と本試験

小玉塾を受けて感じたことは小玉先生独自の分析が本当にその年の的中を狙っていて実際に的中してしまうということです。

私は小玉塾での講義で扱った範囲はしつこいぐらいに反復し、どこが出題されても即答できるというくらいやり込んで本試験当日を迎えました。

本試験を受けてる時は「小玉先生が問題作ったの?」という余裕を感じるほどでした。

以下平成 27 年度本試験と小玉塾の詳細な感想を科目ごとに記載します。

■憲法刑法

私は過去 2 年憲法刑法で満点を取ったことがありませんでした。そしてそのことが択一 1 番の不安要素でした。

しかし、今年の出題は全て「やり込み整理集」、「判例集」の A ランクの部分を完璧にしていれば解ける問題でした。

「やり込み整理集」、「判例集」は復習するのがなかなか骨の折れる教材でしたが、私はこれなしには満点はとれません

でした。

不安要素であった憲法刑法を解いている時から満点だと確信できたことは他の科目を解く上でとても大きな心理的な要素になりました。

■民法

今年は過去問からほぼそのままの出題ばかりで過去問の小玉先生の方針が完璧に的中した科目でした。

また、第 9 問の個数問題である「占有権」については過去問末出の論点である民法 199 条占有保全の訴えに関する判断し辛い肢もありました。

しかし、この箇所は少ない講義回数の中小玉先生がそこまでやるか!と思うほど授業で丁寧に扱い、しかも授業後質問し、小玉先生が「調べてきます」と言い残し、後日丁寧に教えてもらった箇所でした。

本試験中にそのやり取りが浮かび思わずにやけてしまいました。

■会社法

会社法は基本的に過去問と条文からの出題でした。択一对策だけでなく記述編のときからしつこいぐらいに条文を解釈していく小玉塾のやり方で解けると思いました。

会社法は過去問をひたすら解いて条文はあまりひかないという勉強法だとおそらく点数が不安定になるので、小玉先生が授業でするように「そんなの知ってるよ」と思う条文でも面倒くさがらず条文を引きまくるのがポイントだと思います。

条文+過去問を徹底的に完璧にしていく方法を採用した結果、会社法は最も自信を持って解ける科目となり、午前はいつも会社法から解いていました。

■民訴民執民保供託書士法

なんと小玉塾の授業で扱った範囲が全的中しました。

マイナー科目と言われるこのあたりの科目が全的中し、瞬殺できたおかげで時間的にも相当楽になりました。

■不登法

今年難化したといわれる科目で実際に私も第 17 問の職権登記や第 25 問の相続に関する問題はとても難しく歯が立ちませんでした。しかし、それ以外は意外と過去問、小玉塾の配布資料で対処できるものばかりでした。

特に、「書式集」「ネタ集」からの出題がとても多く感じました。

私は「書式集」「ネタ集」を少ないものでも 10 周以上は回し、どの問題でも書式が一瞬で頭に浮かぶようにしていました。

それが今年の択一では効果的でした。

「書式集」「ネタ集」が配布されるのは合否判定も出てい

ない中の 9 月でやる気も出にくいし、やり込むのは相当な根気がいると思います。私も平成 26 年は択一で上乘せが 5 問あったことから小玉塾の始まる 9 月はやる気もなかなか出ず半分脱け殻のようでした。

しかし授業で熱意溢れる小玉先生の講義を聞いていたらやる気も湧いてきて年内をフル活用し、「書式集」「ネタ集」を完璧に仕上げる事ができました。

これらの教材は単純な暗記なので時間をかけず通勤中の電車内何かの待ち時間にやるのに適していると思います。

年内のしかも空き時間に「書式集」、「ネタ集」を完璧にするとても有利になります。

年が明け本試験が近付くと択一や記述の演習に時間を使わなければいけないので書式の基礎知識の確認に使う時間がないからです。

9 月から「書式集」「ネタ集」を完璧にできたことが私の合格の 1 番の要因だったかもしれません。

■商業登記法

後半は難問だらけでした。しかし、小玉塾であれば年内に配布される「記述式の過去問」までしっかりやり込んでいれば失点は 2 問くらいで収まったのでは?と感じました。

■記述式

分量は普段の小玉塾の授業で扱っているのと同じぐらいの分量でした。

毎週小玉先生手作りの新作であるあのボリュームの問題を解いている人であれば時間で苦労することはなかったとおもいます。

また本試験の作りも小玉塾記述に似ているなど感じるものがたくさんありました。

例えば不登の注意事項に手を加えて変更後の債務者の住所を書かせたり弁済額は書かせなかったりするのの小玉塾では頻繁にされていたことでした。

また商登第一欄の役員の任期が初めから満了している問題は小玉塾無料模試で出題され、そのときは大崩壊し、念入りに復習した箇所だったので完璧に解くことができました。

私は小玉塾を受講するまでは不登は権利関係を図にし、商登はタイムチャートを念入りに書いてきましたが今年はこちらも辞め、小玉先生のやり方を真似ました。

慣れるまではケアレスミスを連発しイラつくことも多々ありましたが、慣れれば図を書かなくてもそれが原因で何かを間違えることはなくなりました。

権利関係の図やタイムチャートを書かないことでこれらの図を書くのにかかるであろう 15~20 分程度の時間全てを内容の検討に使うことができるようになり、本試験を含め、模試等でも記述式の点数は前年度より安定しました。

またこのやり方をすることで記述式の問題の内容検討だけなら 1 日で 10~15 問ぐらい解くことが可能になります。私は本試験 3 週間前の週に 1 週間丸々記述式だけを 1 日 10~15 問解き続ける期間を作り、本試験に記述式のピークを持っていくことができました。権利関係図や役員図を書くやり方だとこの方法はできないかもしれません。

各期間の勉強の仕方と注意点

■本試験終了~3 月(択一 All in one 開講)まで

平成 26 年度本試験が終了した時点で私の強化すべき点は記述式、択一では会社法憲法にあると考えていました。

そこで、この時期は会社法の択一過去問、書式集、ネタ集

の反復を軸にして過ごしました。また、記述式の過去問をしたことがなかったので並行して小玉塾で配られた過去問集も繰り返しました。

記述の過去問を繰り返す時は必ず問題をコピーし、解く時は書き込んでいき答え合わせのときは解説を読んで小玉先生が作ったメモと自分のメモを見比べて見落とししていた部分がないかを 1 番注意しました。

記述の過去問は択一よりもはるかに覚えやすく繰り返せば答えはすぐに覚えてしまいます。

しかし、毎回同じようにメモを残すというのは意外と難しく、繰り返していけば自分の見落としがちな箇所というのが嫌でも分かっていきます。

私の場合、最初の方は『「翌日」登記の申請を行った』の「翌日」を見逃して日付を間違えるという等のミスを繰り返しました。

自分の弱い部分を治すのはストレスも溜まり、辛い作業でしたが、年内にこの作業をできたことは大きかったと思います。

■3 月~本試験

択一 All in one 開始を自分の中の直前期と決め生活時間のほぼ全てを勉強に注ぎ込みました。

使った教材は過去問と小玉塾配布教材のみです。この 3 ヶ月程でもすべて 5 周ぐらいは回しました。

記述に関しては基本的に放置して前述のとおり 6 月に一週間「記述強化週間」を作り答練等でストックしておいた問題を朝から晩まで解き続け一週間で 100 問ほどこなしました。

間違えた箇所はどんなささいなことでも「間違えノート」にまとめこのノートは暇さえあれば見るようにして、本試験の昼休みにもこのノートを読みました。

小玉先生の「睡眠なんてしなくてもいいからとにかく過去問!」という考えが気に入り直前の 2 週間程は睡眠を 2 日に 1 回にして他の時間は睡魔と闘いながらもずっと勉強していました。

司法書士試験に合格して

司法書士試験は合格率が 3%です。

私は 1 度目の試験は記述はそれぞれ手応えがあったものの択一で 1 問マークミスをして不合格。2 回目の試験では記述式のほんの一つの判断を間違えて不合格で、「こんなのただの運だろ」と感じ、勉強が馬鹿馬鹿しく感じ、受験を始めたことを後悔することもありました。

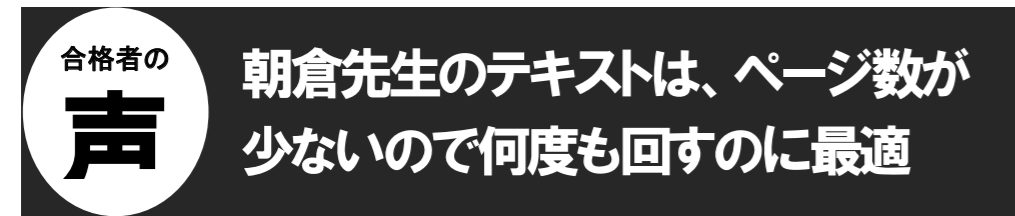
受かった現在でも周りの知り合いでどうみても合格レベルの方がほんの数点の差で落ちているのをみると運がかなりの要素をめている試験だと感じてしまいます。

私は運良く今年合格することができましたが数点差で落ちている方と大きな力の差があるとはとても思えません。

しかし、こんな試験でも合格した喜びはやはり大きいものです。一生残るものを手にすることはこれからの人生でもそうたくさんはないかもしれません。

勉強を続ける方に私が言えるのは合格したらやはり嬉しいということです。

どうか勉強を続ける方には合格した喜びを体験してもらいたいです。



平成 27 年度合格者

井元 さくらさん

受験回数 6 回



はじめに

私は以前、アルバイトをしながら旧司法試験を何度か受けていましたが、力が及ばず、諦めて福祉施設に就職。しかし、やはり法律の専門職に対する憧れは残り、旧司と共通科目が多かった司法書士試験に働きながら挑戦することに決めました。

とはいえ、ろくに勉強せずに受けた1・2回目は択一で足切り。その後、金融機関にて週4日・1日8時間、事務のアルバイトをしながら勉強を続けます。3回目は記述で足切り、4回目は記述の勉強に重点を置き過ぎたのか、まさかの午前択一で足切りになりました。このショックは大きく、もう勉強を止めようかと思いました。しかし自分には他に進むべき道は無いと思い、勉強を再開。5回目は再度記述で足切り、そして今年ようやく6回目の挑戦で合格することが出来ました。

私のとった勉強方法

<受験1～5回目の勉強方法>

1回目の受験は独学でした。2～5回目は予備校の中上級講座を受講しながらの受験でしたが、受講するだけで満足し、講座のテキストを読む回数は少なかったです。テキストより答練・択一過去問重視の勉強でした。

<合格した年の勉強方法>

合格した年の勉強がこれまでと大きく違うのは、テキストを回す回数です。刑法・書士法は2～3回しか読みませんでしたが、それ以外の科目は5～11回も回しました。使用したのは、朝倉先生の講座テキストと市販のものです。朝倉先生のテキストは、ページ数が少ないので何度も回すのに最適でした。

かといって、択一過去問を軽視していた訳ではありません。科目にもよりますが昭和の問題もきちんと解いていました。

解き方①：1回目は原則全問解きますが(間違えた肢には付箋を貼っておく)、例外として同じ肢が出て

きた場合には×印を付けて飛ばし、時間短縮を図りました。

解き方②：民法で根抵当権の問題が出た場合も×印を付けて飛ばします。根抵当権の問題は不登法の知識でカバー出来るからです。

解き方③：間違えた箇所をテキストで確認、該当箇所にマーカーで色を塗り、出題年度等を書き込む。

解き方④：2回目は前回付箋を付けた肢のみ解き、3回目は再度×印を付けた問題以外全問解きました。4回目は1・3回目で間違えた肢を解きました。

ちなみに、上記①②の解き方は、概ね朝倉先生に教わった方法です。

なお択一答練の問題は、過去問が少ない会社法・商登法・憲法と、最近になって苦手になってきた刑法は再度解き直しました。それ以外の科目は、解説を読み復習するに止めました。

次に、私が苦手にしてきた記述対策についてです。とにかく、記述は同じ問題を繰り返し解くというよりは、多くの問題に当たって様々な論点に触れ、色んな間違いを経験した方がよいと考えました。そこでまず利用したのが、「辰巳とうもん倶楽部」です。これは送料実費負担だけで、4回記述の問題が届くというサービスです。マイナーな論点ばかりが取り上げられていましたが、本試験でどんな問題が出ても慌てないようにするいい訓練になりました。

また、年明けからは「司法書士オープン 科目別・範囲指定編」を受講しました。予備校によっては、隔週しか記述の出題が無いのですが、辰巳は毎週出題されていたからです。これにより、強制的に記述を解く機会が増えました。辰巳の記述式問題は、一見簡単そうでありながら、解説冊子を読んで初めて気が付くような論点が盛り込まれており、良問が多かったと思います。記述の答えは、試験終了時間より早めには書き上げてコピーを取りに行き、帰宅後そのコピーと解答例を照らし合わせ、どこを間違えたのか直ぐに把握できるようにしていました。

なかなか覚えられない雛形は、紙に書いてトイレの

壁に貼ったり、大きめの単語帳に書いて仕事の休憩時間に見ていました。その他、小玉先生が教えてくださった方法をアレンジし、自分が間違えやすいことや、すぐに論点を想起出来ないことは表にして模試・本試験前に何度も見直しました。

記述の過去問を解かない方もいるようですが、私は不登法・商登法ともに平成18年以降のものは解きました。本試験の問題は、答練よりもウンザリするような問題が多く、慣れておくべきかと思います。

最後に、模試についてです。例年、模試は4回申し込んでいたのですが、体調不良で欠席した年があったことから、今年は念のため5回申込みました。しかし、週4日勤務とはいえ、働きながらの勉強で5回も模試を受けるのは時間的に少々きつかったです。残念ながら、合格判定が出たのは最後の1回だけでした。

本試験直前～合格発表まで

6月1日～本試験前日までの間、一日でどの科目を勉強したのかが分かるようにエクセルで表を作成し、管理していました。マイナー科目を含め、一週間に一度は全ての科目に触れるよう意識し、特に民法は毎日勉強していました。

本試験の一週間前は、有給休暇を取得しました。ところが、体調不良のため一日の勉強時間は8～10時間、解こうと思っていた単年度版の択一過去問には手を付けられませんでした。精神的に落ち着かず、毎日松本先生のブログを見ていました。

そんな中、本試験当日を迎えました。緊張しながら試験会場へ向かうと、鉢巻き姿の小玉先生が目飛び込んできました。「先生、目立ち過ぎですよ！」等と握手しながら話しましたが、そのおかげで緊張感が解け、ここ数年で一番リラックスした状態で午前択一に臨むことが出来ました。択一は、午前・午後共に原則として全肢検討する方法を取りました。私はケアレスミスが多いため、2～3肢で判断するのは危険だったのです。但し、不登法で予想以上に時間がかかり、自信のある肢だけで答えを出したものもありました。午後の時間配分は、択一70分、不登法記述50分、商登法記述60分です。最大択一は70分までが許容範囲と考えており、時間配分は想定どおりでした。

帰宅後、不登法記述で登録免許税等の致命的なミスをしていることに気が付き不合格を確信、8月下旬から勉強を再開しました。私は、午後択一で毎年27～28問取れていましたが、年々不登法の点数が下がってきたため、基礎からやり直そうと、「リアリスティック発合格松本基礎講座 不登法」を通信で受講することにしました。長い受験生活の中で初めて基礎講座を受けましたが、思い出し方・問題を解く視点等、

こんなにも合理的な方法を教えてもらえるのかと驚きました。勉強開始当初、基礎講座は値段が高くて受講できなかったのですが、受講していたらもっと早く合格していたのでは…と思いました。

今年もたぶん不合格だと思っていたので、合格発表を法務局で見る勇気は無く、ネットで確認しました。自分の番号を見つけた時には号泣してしまいました。

後進へのアドバイス

何となく受験勉強を始めた、という方もいらっしゃると思いますが、この試験は簡単に受かるようなものではありません。それは、5回も落ちた経験から断言できます。要領よく勉強することは勿論重要ですが、一定の勉強量も必要です。

また、択一・記述の勉強のバランスをとるのが非常に難しい試験だと思います。私にとっては、記述の基準点が大きな壁でした。答練では、何度も申請順序を間違えたり、枠ズレしたり、登記できない事項を登記してしまいました。でも、その経験があつてこそ、今年の記述ではそのようなミスをする事なく、基準点プラス10点以上の点数を得られたのだと思います。自分の弱点と向き合うことを、大切にしてください。

最後に

今年の本試験前、私は初めて周囲の人に「今年は受かります」と宣言しました。なかなか勇気が出ないかもしれませんが、思い切って言ってみてください。それが「有言実行」に繋がることを、願ってやみません。

当パンフレットの内容に関しては、
資料をご請求の上、ご覧ください